　７月９日、毎年全校で行っているお米づくり体験学習の田んぼで、２年生１０名が、田んぼの生きもの調査を行いました。

今回は、「環境活動支援センター　えこらぼ」の講師派遣事業でご紹介いただきました谷川先生においでいただき、わかりやすくお話していただきました。谷川先生は、梼原町在住で、全国で田んぼの生きもの調査の講師など務められているそうです。

　まずは、田んぼのあぜをそっと歩きながら、まわりの様子をじっくりと眺め、どんな生き物がいるのかなあと意識を集中してみる。次に、田んぼの縁にしゃがみ込み、田んぼの中をそっと覗きこんで見る。すると　普段あまりじっくり見ることのない田んぼにも、ヒルやゲンゴロウ・ミズカマキリやユスリカの幼虫・メダカやオタマジャクシ・ヌマガエルやトノサマガエル・アマガエル。ハシリグモやマツモムシといった様々な生き物が住んでいて、周辺をイトトンボや赤トンボが飛んでいることがわかりました。

ユスリカの幼虫（田んぼの土をじっと見ていると、細い土の糸くずみたいに見えるもの）が田んぼの土をつくっていることに驚きました。（人間にとってはお米をとるための田んぼだけれど、そこには多種多様な生き物が、深くかかわり合って生きていて、それらが居なくなると、人間も米を作れなくなるし、逆に人間が米づくりをやめると、田んぼで生活している生き物たちもすむところが無くなってしまう。私たち人間も地球環境のなかで住んでいる一種族として、他の生きものとの関係を守っていく必要があるなあ）と感じました。